

2022年度 総合政策学部 FD 活動報告

総合政策学部では本年度のFD活動方針・活動計画として3項目を掲げている。すなわち、本年度から新たな内容と態勢で始動した「総合政策基礎演習B」について、適切な準備と点検を行なっていく（1）、新型コロナ感染対策の中で対面、オンライン、ハイブリッドの3形式が混在する授業形態の多様化に対応して、求められる効果的な授業の在り方にはどのようなものがあるか情報共有や検討を行なう（2）、学科科目「政策研修プログラム」（通称NAP）について、世界的な新型コロナ感染状況の中で、本年度は留学予定先校とオンライン形式で開講を行なう2年目となる。この科目実施の状況について、教員間での情報共有と点検、より充実した実施内容に向けた検討を行なっていく（3）。この他、年度が始まってから、合理的配慮を要する学生への対応についてどう取り組むかという課題に関する認識を早期に深める必要性が提案されたことから、FD活動に加えた（4）。以下、これらの項目についての活動内容を報告する。

（1） 「総合政策基礎演習B」の新たな内容・運営に関する準備と点検

① FD懇談会「総合政策基礎演習Bの具体的な運営方法についての検討」2022年5月25日/参加27名

全体講義の各担当者から担当講義とそれに接続する個別授業の課題について説明があり、それについて、参加教員から質疑、提案など意見交換が行なわれた。

- ・課題内容に関する確認、意見
- ・Webclassを利用した出席確認の方法について
- ・個別授業におけるグループ振り分けの方針（人数など）について
- ・評価方法、成績入力・集計の方法について
- ・秋学期の早い時期に、授業の実施内容に関する検討会を行なう方向であることを確認した。

② FD懇談会「基礎演習科目の事後評価と今後のありかたーPDCAの観点からー」2022年8月2日/参加20名

はじめに、4名の全体講義担当者から、各担当講義に関する概要説明と実施報告があり（各5分程度）、科目コーディネーターの石川先生より成績の分布状況について報告があった。その後、個別授業の担当者から（7名）、それぞれ個別授業での主にディスカッション運営に関する実施報告や、意見提示がなされた。

- ・エクセルでの作業を履修者全員に課すうえでは、Windowsの指定も要検討
- ・課題数をしぼることや、問題設定の仕方でディスカッションの中身を濃くできる
- ・ディスカッション・グループ編成の工夫も効果的
- ・各グループからの意見の集約や、可視化（板書、入力など）の工夫も課題 など
- ・成績分布については一部に要検討な傾向も認められるが、概ね適切という見方で一致した。

（2） 授業形態の多様化（対面/オンライン/ハイブリッド）に対応して求められる効果的な授業の在り方の検討

この課題については、本年度の全学FD企画「コロナ禍で見えてきたもの～ポストコロナに活かしていくために～」が密接に関連することから、研修を全学企画に集約することとして、学部として独自の研修会は持たなかった。

(3) 学科科目「政策研修プログラム」（通称NAP）のオンライン実施に関する情報共有と検討について

2023年3月10日（金）に、夏期・春期担当者による報告会を行なった。学部教員全体の間での情報共有の活動はFDとしては未実施であるが、2023年1月に設置された、当該科目を含む「政策実践科目」群に関する運用方針検討ワーキングによる経過報告と諮問が教授会において随時行われており、情報共有の場となっている。

(4) 合理的配慮を要する学生への対応に関する情報と課題の共有

① FD研修会「合理的配慮を要する学生への対応について」2023年3月2日/参加25名（うち学部教員22名）

講師に保健センター長の中野有美先生をお招きして開催した。中野先生より、20世紀中頃から50年余りにわたる障害者基本法や障害者権利条約など、「障害」をめぐる日本および国際的な取組みの思想・基準の変遷から、現在の「合理的配慮」の考え方に至るまで、簡潔でわかりやすいご説明をいただいた。そして、本学における「合理的配慮」に関する制度作りもその流れの中で行われていること、それが「合理的配慮早わかりガイド」（保健センター・大学生生活支援室発行）の各項目に反映されていることが紹介された。中野先生の他に、保健センターから参加された香川先生、林さんも交えて、学部の参加者との間で熱心に質疑・意見交換が行われ、予定終了時刻を15分ほど超過した。

以上